

丹波市生涯学習基本計画に基づく市の生涯学習関連事業(まちづくり部・教育部関連)基本目標別

1. まなび人を増やそう

(1) 学びへの関心を高める

① 学びに出会い参加するきっかけづくり

② まなびの機会や団体情報発信

[評価]
A 期待以上の成果が得られた
B 概ね期待どおりの成果が得られた
C 期待したほどの成果が得られなかった
D 成果が得られなかった

評価	1年以内に生涯学習を行った市民の割合は、H28：65%、H29：71%であり、感染症の影響もあり一時的に落ち込んだが、各種団体の活動も再開され、少しずつ回復してきている。また、シニアカレッジラジオ講座やICT活用など、自宅に居ながら学習を継続できる、新しい学習スタイルによる事業を展開した。	指標名	R1	R2	R3
		1年以内に生涯学習を行った割合	57.0	58.0	60.3

事業名	令和3年度の取組	評価 (○自己評価、●自己評価に基づく課題)	令和4年度の取組	評価	部署名
3 丹の里人権のつどい	丹の里人権のつどい ・日 時 12月5日(日) ・場 所 春日文化ホール ・講 師 講師 弁護士 住田裕子さん ・演 題 「変革期の今、人・意識、どう変わる」 ・参加者 320人(前年度328人)	○新型コロナ対策を講じながらの実施となったが、人権についての関心や理解を深める機会となった。(参加者の79%が、「人権についての関心や理解が大変深まった・深まった」と回答) ●より多くの市民が参加され、人権に関する理解が深まるよう内容の充実を図る必要がある。	各団体と連携し、内容の充実を図りながら、12月に実施する。	A	人権啓発センター
49 生涯学習・市民活動団体情報発信	登録団体の情報発信を行った。 ・市民プラザ登録団体 78団体(63団体) ・情報誌の発行 年6回 ・広報による高齢者学級の紹介 12団体(12団体)	○各種団体や自治協議会が独自でホームページを開設するのはハードルが高いため、情報発信の支援ができていない。 ●施設使用の目的のみの登録団体は情報量が少ないため紹介に至っていない。	引き続き登録団体の紹介を行い、学習活動や地域づくり活動を始めようとする市民の増加をめざす。	B	市民活動課
54 TAMBAシニアカレッジ・地域高齢者学級合同募集チラシ作成	令和3年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、下半期のみ講座を実施したため作成していない。	○下半期のみ講座実施により、合同チラシは作成していない。 ○毎月の広報たんばにて「地域高齢者学級だより」を掲載し、各高齢者学級の活動の紹介を行っている。	引き続きシニアカレッジと地域高齢者学級の連携を図り、合同チラシを配布し事業の周知徹底と、受講者の拡大を図る。	A	市民活動課
55 TAMBAシニアカレッジ	新型コロナ感染症対策のため、下半期のみ教養講座を実施した。 【講座分野】 ・教養講座6回(0回)	○新型コロナウイルス感染拡大防止のため、下半期のみ教養講座を実施した。 ●感染拡大防止の観点から、大人数が集まって学習するスタイルがニーズに合っていない。	・新型コロナの感染対策を図りながらも学べる環境を整える。 ・少人数による、学びを深め、まちづくりへの参画を促すゼミ	B	市民活動課

資料⑥

	<ul style="list-style-type: none"> ・受講申込数 104 人 (262 人) ・テーマ (生涯学習、時事問題、健康、現地学習) 	<p>るか。オンライン講座の普及も、高齢者の I T リテラシーの向上が課題である。</p>	<p>を実施する。</p>		
68 市民活動支援センター運営	<p>NPO 法人丹波ひとまち支援機構へ委託し、生涯学習活動や地域づくり活動の総合的な支援を行った。</p> <p>①市民活動団体・イベント情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報誌「tamtam」発行 6 回 ・チラシ配架、登録団体の特別展示 ・講師紹介、講師派遣 ・各種補助金情報収集、紹介 ・ポータルサイト、SNS、DM ・「ラジオ喫茶こちか」第 1・3 土曜 <p>②各種相談対応及び専門的な支援会議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談対応 1,177 件 ・地域支援 (アンケート実施、会議運営、地域づくり計画見直し、HP 作成、地域支援者連絡会等) <p>③交流、マッチング、コーディネート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・団体紹介、講師紹介 ・サロン事業 (学びのおしゃべりサロン、若者サロン) ・「高校生が創る丹波の未来への架け橋プロジェクト」への支援 ・市の相談 (市政広聴会、議会車座ミーティング) <p>④人材育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ちいきの豆ちから講座開催 2 回 ・地域づくり大学連携 (受託者同じ) <p>⑤団体運営支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報発信、データ分析、講師紹介、団体・法人設立、運営、会計、労務、チラシ作成、事業企画、資金調達、オンライン活用) <p>⑥政策提言</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パブコメミーティング 5 回 ・パブコメガイドライン作成 <p>⑦市民プラザだ交流会開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種団体出展、体験コーナー、ステージ発表、動画配信など 	<p>○地域支援については、地域への訪問を行い、地域の進み具合によって伴走しながら会議支援などを行っている。</p> <p>○市民活動団体や生涯学習団体が参加する大交流会では、団体同士がつながることができている。また、参加団体が主体的に取り組むための事前打ち合わせを行うなどの仕掛けができている。</p> <p>○地域情報や団体情報、イベントなどを情報誌「tamtam」や SNS 等を活用し、積極的な発信ができている。</p> <p>○ICT を活用した会議や講座の実施など、先駆的な取組を行っている。</p> <p>●コロナ禍において、地域での活動や団体の活動が縮小される中、活動再開に向けた支援が必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市民プラザ基本計画に基づき、市民活動支援センターを含む市民プラザの運営については、指定管理による運営を行う。 ・受託者は、令和 3 年度まで委託事業受託者である NPO 法人丹波ひとまち支援機構とする。 	A	市民活動課

(2) 学びを見つける

①市民がつくる学びの機会の提供

②多様なニーズに応じた学びの機会の提供

事業名	令和3年度の取組	評価 (○自己評価、●自己評価に基づく課題)	令和4年度の取組	評価	部署名
14 男女共同参画推進事業補助金	補助件数：11 団体 (5 団体) 補助総額：204,027 円 (269,320 円)	○補助金を活用し、新たに取組を行った団体等があり、地域等での自主的な学習・啓発活動を促すことができた。 ●地域で進める男女共同参画を支援するため、補助金の活用について、より積極的な周知が必要である。	広報紙や市ホームページ、男女共同参画推進員研修会を通じて、補助金を周知する。	B	人権啓発センター
16 男性のための男女共同参画講座	開催日：12月18日(土) 講師：角井孝次(アンガーマネジメントファシリテーター) テーマ：イラッとした時の処方箋「男性のためのアンガーマネジメント」 参加者：12人	○男性が自分自身を振り返る機会と参加者同士の交流を図ることができた。 ●様々な視点から男女共同参画に対する理解を深める学びの場を増やしていく必要がある。	男性のための男女共同参画を支援する講座を開催する。	A	人権啓発センター
22 文化ホール自主事業	・若年層をターゲットにした鑑賞型事業や市内高校生による自主企画、バックステージツアー等の実施。 ・自主事業 8公演(8公演) ・自主事業来館者数 2,296人(2,294人)	○コロナ禍ではあったが、座席制限等しながら事業が実施できた。 ●新聞やラジオ放送等を積極的に活用・タイアップする等、ファン・リピーターの増加に向けた営業・広報戦略が必要。 ●舞台芸術に触れる機会・環境を整備するために、アウトリーチや体験型ワークショップ等の事業展開による舞台芸術環境づくりが必要。	・観客増員に向けて、アンケート分析、ホール事業推進会議の意見を踏まえ、魅力ある事業や若い世代を対象とした事業の取り組みを引き続き展開する。 ・アウトリーチ活動は、文化芸術を鑑賞しようとする市民意識の向上と舞台芸術環境づくりに資すると期待できるため、積極的な取り組みをする。また学校教育との連携等、教育委員会と協議し実現可能なものは取り組みに向けて検討する。 ・令和4年度以降は「はじめの一步シリーズ」として、多様な分野の芸術鑑賞・体験講座を計画する。	B	文化・スポーツ課

47 丹波市活躍市民によるまちづくり事業応援補助金	補助金交付件数 ・提案補助金（上限 300 千円） 12 事業（7 事業） ・応援補助金（上限 50 千円） 1 事業（1 事業）	○年度開始前に審査会を開催し交付団体を決定することで、各団体は 4 月 1 日から事業を進めることができた。 ○提案補助金は特色を生かした 12 団体から補助金交付申請があった。 ○コロナの影響により 12 団体のうち 7 団体が事業を中止した。	・新しい生活様式に合わせ、コロナ禍においても積極的な活動が提案されるよう申請時に指導する。 ・補助年数（3 年）が終了しても活動が継続できるよう収支計画について助言する。	A	市民活動課
61 丹波青い鳥学級	丹波篠山市が主事務局となって 4 回講座を実施した。 ・学級生 13 名（丹波市）	○学級生は、積極的に参加し意欲的に学ぶことができている。 ●学級生の高齢化が進んでおり、新たな学級生獲得が必要。 ●学級生にとって実用的な知識を習得できる講座が必要。	・丹波篠山市が主担当事務局となり 4 回講座実施予定。 ・新規学級生獲得に向け視覚障害者手帳 1～2 級の方に案内を送付。 ・健常者もともに参加できる内容を検討していく。	B	市民活動課
62 丹波くすの木学級	丹波市が主事務局となって 4 回講座を実施した。 ・学級生 5 名（丹波市） ・手話サークル ・要約筆記グループ ・ボランティア	○体験講座などで学級生同士、ボランティアと交流しながら共に活動することの楽しさを実感できた。また、災害時の対処方法や心肺蘇生法など、普段の生活に役立つ学習ができた。社会見学では、合理的配慮に係る企業の取り組みを知ることができた。 ●学級生が固定化しており、新たな学級生の獲得、満足度や学習意欲を高められる魅力的な講座の実施が必要。	・障がい福祉課と連携し新規受講生獲得のため、聴覚言語障害者 1～2 級の方に案内を送付し、市内の手話サークルへも案内した。本年度は丹波市が担当事務局で 4 回講座を実施予定。 ・内容は、運営委員会で協議し、体験的なもの、知識が得られる講座を実施。社会見学も実施予定。	B	市民活動課

(3) 学びの場をつくる

①身近な学びの場づくり

②多様なニーズに応じた学びの場づくり

③学びの環境の利便性の向上

事業名	令和 3 年度の取組	評価（○自己評価、●自己評価に基づく課題）	令和 4 年度の取組	評価	部署名
1 人権啓発ラジオ番組の放送	・期 間：5/10～2/26 ・内 容：人権啓発番組「あなたに寄り添う 心のハーモニー」として、様々な人権課題やイベント情報、中学生人権作文を放送した。 ・回 数：月～土曜日、週 6 回、1 回 5 分、年間 30 週放送	○身近な学習ツールとして、様々な人権課題や情報を発信することができた。 ●聴取者数や属性等が不明であり、効果を把握するのが難しい。	・広報紙や市ホームページ、を活用し、人権啓発ラジオ番組の周知を図る。	B	人権啓発センター

18 小学校及び中学校の学校開放事業にかかる定期利用調整	12月に開催 127団体 ・各6地域ごとに利用者と学校関係者と調整をする。 ・施設利用の諸注意も合わせて実施	○各利用団体で調整をスムーズに行えた。 ○学校関係者とも利用団体と一緒に諸注意ができた。	・継続して利用調整会議を開催する予定。	A	文化・スポーツ課
21 文化ホール管理	・機器設備の定期保守点検や、計画的な簡易修繕を実施し安定した施設管理を行った。 ・スタインウェイピアノのオーバーホールや英国製舞台演出用黒紗幕の更新を行った。(ライフピア) ・利用者数 春日文化H 4,999人(4,744人) ライフピア 5,262人(3,098人)	○適切な保守点検による予防保全につとめ、施設の安全性の確保に努めた。 ●経年とともに施設や設備が老朽化していくため、計画的な更新や予防修繕を行ない、安全を最優先で確保するとともに、経費の平準化を図り安定した維持管理に努める。	・2ホールの安定的な維持管理を行う。 ・コロナ禍でも事業ができる環境づくりとして、ネット配信できるようホールを整備する。	B	文化・スポーツ課
44 丹波市自治公民館等施設整備事業補助金	自治公民館の新築及び改修 ・新築 1件(2件) ・改修 3件(3件) ・グラウンド整備 1件(1件)	○自治会において、自治公民館の改修が実施され、施設の機能向上による自治会活動の活性化が促進された。 ●建築年数が古い自治公民館が多く、取り壊しや改築に大きな負担が生じる。	・引き続き自治公民館活動の活性化を促進し、生涯学習の振興を図る。 ・近隣自治会との機能連携によるシェアなどを検討する。	A	市民活動課
46 丹波市地域づくり活動拠点施設整備事業補助金	地域づくり活動拠点施設の改修 ・改修 4件(1件)	○自治協議会において、活動拠点施設の改修が実施され、施設の機能向上による地域づくり活動の活性化が促進された。 ●建築年数が古い施設が多く、取り壊しや改築に大きな負担が生じる。	・引き続き自治協議会等の地域づくり活動の推進を図る。 ・拠点施設の役割や近隣公共施設との関係を整理し、耐震工事や建て替えを計画される際の相談を行う。	A	市民活動課
56 TAMB Aシニアカレッジラジオ教養講座	全10回のラジオ講座を開講 [テーマ] 生きがい、生活、歴史、芸術、健康、生き方、情報、園芸、福祉介護	○新型コロナウイルスが感染拡大する中でも学び続ける新しいカタチとしてラジオ講座を開講した。	・会場に行くことができない高齢者の学ぶ機会として継続する。 ・教材を見ながら聴き学ぶことができるような工夫をする。	A	市民活動課
65 住民センター管理	・利用者数 149,196人(135,531人) ・施設使用料(住民センター使用料) 10,341,749円(9,607,526円) ・免除団体登録 75団体(78団体)	○新型コロナウイルス感染症対策に伴う閉館、利用自粛等により施設利用者、施設使用料ともに大きく減少した。 ●施設によって利用件数に差がある。 ●各施設とも老朽化が進んでおり、施設の改修、設備の更新が必要となっている。	・引き続き市民の生涯学習拠点となる各住民センターを適正に管理運営する。 ・大規模改修の時期を考慮し、必要な設備の改修、更新を行う。	B	市民活動課
66 公共施設予約システム運用・自動券売機管理	・アクセス件数 30,809件(21,519件) ・WEB予約件数 1,226件(1,666件)	○施設管理課に業務を集約したことにより、管理手法について統一化ができた。 ●既存の公共施設予約システムが導入後15年経過しており、改修では対応できない課題も増えてきたため、新たなシステムへの更新が必要となっている。	・引き続き公共施設予約システム、自動券売機の運用管理を適正に行う。 ・公共施設予約システムの更新について調査研究を行う。	B	市民活動課

116 図書館管理運営事業	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども読書推進講座 参加者数延べ 20名(0名) ・ブックスタート 月2回実施 コロナ感染防止のため保健師による実施 ・夏休み一日図書館員(7~8月) 参加者数(各館合計) 11名(9名) ・トライやる・ウィーク 受入れ者数17名(0名) ・ミニトライやる・インターンシップ 受入れ者数 0名(3名) ・ビブリオバトル大会 観戦者数 15名(0名) ・文学講座(2回講座) コロナ感染拡大のため中止 参加者数延べ 0名(0名) ・各館おはなし会、ブックトーク 随時開催 	<p>○コロナ感染防止を図るため、対策を取りながらの実施または中止、縮小することとなった。コロナに対応する事業とすべく、取組内容の模索を継続している。</p> <p>●引き続きコロナに対応できる事業内容とするために、従来の事業内容にとらわれない新しい取組としていくことが課題である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども読書推進講座(1回講座) 毎年度、1月に計画 ・ブックスタート 月2回実施 ・夏休み一日図書館員(7月~8月) 全館で受入れ ・トライやる・ウィーク全館で受入れ ・ミニトライやる・インターンシップ 各館で希望者を受入れ ・ビブリオバトル大会 毎年度、12月に計画 ・文学講座(2回講座) 毎年度、2月と3月に計画 ・各館おはなし会、ブックトークを随時開催する。 	B	中央図書館
119 美術館管理運営事業	<ul style="list-style-type: none"> ①アニメスタジオ『エイケン』による、懐かしのキャラクターを紹介した展覧会 会期：3月27日~6月27日 入館者：3,099人 ②おとうさんはウルトラマンシリーズ等で著名な絵本作家の巡回展をアレンジ。大人も子どもも楽しめる展覧会 会期：7月17日~9月5日 入館者：5,385人 ③広重の名を不動のものにした保永堂版「東海道五十三次」全作と丹波鐘ヶ坂を含む「六十余州名所図会」等で日本を旅する形で紹介 会期：9月18日~11月14日 入館者：5,478人 ④豊かな穀倉地帯である丹波の地に足跡を残した4人の近代日本画家を取り上げて丹波市に残る作品を中心に紹介 会期：1月15日~3月13日 入館者：2,753人 	<p>○各展覧会では、各種イベントや講演会などを通して、作家の作品に対する思いや意図、作品の素晴らしさを直接来館者に伝えることができました。</p> <p>また、美術館の建物や展覧会の内容などを紹介したYouTube動画を作成した。</p> <p>●美術館は館蔵品を十分に整理しきれていないため、館蔵品図録の作成や独自の企画展の実施など、企画会社に頼らない努力も必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの感染対策を図りながら市内博物館施設及び図書館が相互に連携した事業や美術館の個性や館蔵品を活かした事業を展開し、広く市内外にPRすることにより、来館者数の増加や市内滞在時間の長期化に努める。 	B	植野記念美術館

2. まなび力を育てよう

(1) 学びでつながる

① 多様な学びの活動をつなぐネットワークの推進

② 学びの相談支援・コーディネート機能の整備

〔評価〕

A 期待以上の成果が得られた

B 概ね期待どおりの成果が得られた

C 期待したほどの成果が得られなかった

D 成果が得られなかった

評価	学びを生かしたいと思う市民の割合は、H29：34.2、H30：41.7%と伸びていたが、感染症の影響もあり、地域活動の縮小とともに徐々に減少している。生涯学習を行った割合の回復とともに、地域活動が再開されれば、学びを生かした取組に期待できる。	指標名	R1	R2	R3
	学びの活動で身についた知識や技能を生かしたいと思う市民の割合	39.5	38.7	34.8	

事業名	令和3年度取組	評価（○自己評価、●自己評価に基づく課題）	令和4年度取組	評価	部署名
26 丹波市文化協会総合文化祭	丹波市文化協会総合文化祭、令和3年度中止（平成30年度実施） ①出品数（出演数） ②鑑賞者数（入場者数） ・展示部門（絵画、書、写真、絵手紙等） ①中止（187点）/②中止（469人） （鑑賞者数には舞台部門入場者数が含まれる） ・舞台部門 ①中止（27団体）/②中止（214人）	○芸術文化活動に取組まれている方が高齢化し、また若い世代の組織加入等が減少している。 ○コロナ禍であったが、地域単位の文化祭や地域の催物を感染防止対策をしながら実施するところが多かった。役員・幹部の方々が活動維持に努め、会員離れの予防に努められた。 ●若年層による活動参加へのPR及び組織体系の見直し等の支援策が必要である。	各団体役員会において、組織の活性化と活動内容の充実等について協議し、将来像の具現化を図る。また旧町単位の下部組織で構成する現在の組織体系を基本としながら、種目別団体が構成する組織体系への組換え等の協議を行い、文化芸術団体の窓口として機能する組織へ位置付けていくための検討を行う。 令和4年度は総合文化祭を時期を変えて実施する（令和3年度中止）。	B	文化・スポーツ課
35 丹波市ふれあいスポーツの集い	中止（令和2年度：中止） 【令和元年度実施内容】 ・参加者117名、スタッフ59名 ・参加団体 一般参加、市障がい者スポーツ推進委員、特別支援学校、小中学校特別支援教室、市内各障がい者施設、身体障がい者協議会、ボランティア協会、スポーツ推進委員、県障がい者スポーツ指導者協議会丹波支部、市社会福祉協議会、民生委員児童委員連合会	○規模の縮小、感染防止対策を講じた上で実施に向けて検討をしたが、申込者の状況や、新型コロナウイルス感染拡大状況等により開催を中止した。 ●障がいのある・無いに関わらず、誰もが気軽に参加できること、コロナ禍の状況の中、開催に向け感染対策、規模の縮小、プログラムの検討を検討する必要がある。	・R4はコロナ禍であるため、参加人数の縮小、開催プログラムを午前のみに変更等と、感染対応を検討し実施予定としている。 ・各施設利用者や支援学校において、コロナ禍により施設内クラスター発生を懸念され参加の自粛をされる状況。 ・市内小中学校にも案内し、参加者を増やす。 ・健常者の参加も増やし障がい者と交流できる体制を検討する。	新規	文化・スポーツ課

<p>68 市民活動支援センター運営</p>	<p>NPO法人丹波ひとまち支援機構へ委託し、生涯学習活動や地域づくり活動の総合的な支援を行った。</p> <p>①市民活動団体・イベント情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報誌「tamtam」発行6回 ・チラシ配架、登録団体の特別展示 ・講師紹介、講師派遣 ・各種補助金情報収集、紹介 ・ポータルサイト、SNS、DM ・「ラジオ喫茶ここちか」第1・3土曜 <p>②各種相談対応及び専門的な支援会議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談対応 1,177件 ・地域支援（アンケート実施、会議運営、地域づくり計画見直し、HP作成、地域支援者連絡会等） <p>③交流、マッチング、コーディネート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・団体紹介、講師紹介 ・サロン事業（学びのおしゃべりサロン、若者サロン） ・「高校生が創る丹波の未来への架け橋プロジェクト」への支援 ・市の相談（市政広聴会、議会車座ミーティング） <p>④人材育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ちいきの豆ぢから講座開催2回 ・地域づくり大学連携（受託者同じ） <p>⑤団体運営支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報発信、データ分析、講師紹介、団体・法人設立、運営、会計、労務、チラシ作成、事業企画、資金調達、オンライン活用） <p>⑥政策提言</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パブコメミーティング5回 ・パブコメガイドライン作成 <p>⑦市民プラザ交流会開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種団体出展、体験コーナー、ステージ発表、動画配信など 	<p>○地域支援については、地域への訪問を行い、地域の進み具合によって伴走しながら会議支援などを行っている。</p> <p>○市民活動団体や生涯学習団体が参加する大交流会では、団体同士がつながることができている。また、参加団体が主体的に取り組むための事前打ち合わせを行うなどの仕掛けができている。</p> <p>○地域情報や団体情報、イベントなどを情報誌「tamtam」やSNS等を活用し、積極的な発信ができている。</p> <p>○ICTを活用した会議や講座の実施など、先駆的な取組を行っている。</p> <p>●コロナ禍において、地域での活動や団体の活動が縮小される中、活動再開に向けた支援が必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市民プラザ基本計画に基づき、市民活動支援センターを含む市民プラザの運営については、指定管理による運営を行う。 ・受託者は、令和3年度まで委託事業受託者であるNPO法人丹波ひとまち支援機構とする。 	<p>A</p>	<p>市民活動課</p>
<p>110 学校と地域でつくる学びの未来を考える勉強会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実施日：令和3年4月24日 ・場 所：柏原住民センター ・参加者：46名（オンライン参加含む） ・講 師：大谷 裕美子 氏 ・テーマ：大人も子どもも楽しく学べるまちづくり 	<p>○講話をもとに自らの地域を振り返り、課題を共有できた。</p> <p>●学校、地域、関係団体、個人とのネットワーク化をめざす。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域から考える学びの未来会議」の開催 ・年間2～3回開催 	<p>B</p>	<p>社会教育・文化財課</p>

(2) 学びを生かす

①学びの成果を評価する仕組みづくり

②学びの成果を活用する仕組みづくり

③地域の人材を活用する仕組みづくり

事業名	令和3年度の取組	評価 (○自己評価、●自己評価に基づく課題)	令和4年度の取組	評価	部署名
11 人権啓発パネル展	<ul style="list-style-type: none"> ・展示点数 224点 (30点) ・優秀作品 224点を丹波ゆめタウンのゆめ広場で展示した。(11月26日～12月3日) 	<p>○作品展示を通して広く市民に人権啓発をする機会となっている。</p> <p>●効果的な人権尊重意識の啓発が今後も実施されるよう、さらに内容を充実させる必要がある。</p> <p>●多くの人の目にとまり、1000人程度の人に関心を持っていただいた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、学校を通じて作品募集を行い、入賞作品の決定、表彰を行う。 ・商業施設等での作品展示も継続し、広く市民への人権尊重意識の啓発に努める。コロナウイルス感染拡大防止対策を取りながら事業を進める。 	B	人権啓発センター
26 丹波市文化協会総合文化祭	<p>丹波市文化協会総合文化祭、令和3年度中止(平成30年度実施)</p> <p>①出品数(出演数) ②鑑賞者数(入場者数)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展示部門(絵画、書、写真、絵手紙等) <ul style="list-style-type: none"> ①中止(187点)/②中止(469人) (鑑賞者数には舞台部門入場者数が含まれる) ・舞台部門 <ul style="list-style-type: none"> ①中止(27団体)/②中止(214人) 	<p>○芸術文化活動に取組まれている方が高齢化し、また若い世代の組織加入等が減少している。</p> <p>○コロナ禍であったが、地域単位の文化祭や地域の催物を感染防止対策をしながら実施するところが多かった。役員・幹部の方々が活動維持に努め、会員離れの予防に努められた。</p> <p>●若年層による活動参加へのPR及び組織体系の見直し等の支援策が必要である。</p>	<p>各団体役員会において、組織の活性化と活動内容の充実等について協議し、将来像の具現化を図る。また旧町単位の下部組織で構成する現在の組織体系を基本としながら、種目別団体が構成する組織体系への組換え等の協議を行い、文化芸術団体の窓口としての機能する組織へ位置付けていくための検討を行う。</p> <p>令和4年度は総合文化祭を時期を変えて実施する(令和3年度中止)。</p>	B	文化・スポーツ課
27 丹波アートコンペティション(丹波市民美術展)	<p>第3回丹波アートコンペティション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施日 令和4年2月22日(火)～2月27日(日) ・場所 春日文化ホール・春日住民センター ・出展数 272点(293点) ・入選・入賞数 188点(206点) ・来館者 1059人(1209人) ・実施日 令和4年3月8日(火)～13日(日) ・場所 植野記念美術館 ・来館者 337人(243人) 	<p>○出展数、来場者数が昨年より少し減った。</p> <p>●市内参加者率が落ちているため、市民に向けた参加促進につながる取組が必要。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・過去の開催により、課題を整理し、実行委員会と協働で課題解決に向けた取り組みを進める。 ・市内参加者の出品数や来館者増に向けた取り組みを検討する。 ・市内の折り込みチラシや広報に加えて、DMを送るなど出品数、来場者を増やすためのPRをする。 	B	文化・スポーツ課

29 丹波市スポーツ推進委員会運営事業	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年に新規にクォーターテニスサークルを結成することができた。令和2年度はコロナ禍により中止(自粛) ※(令和元年体験教室 10回) ※R3サークル活動にて実施。 ・新体力測定会 コロナ禍により中止。 ・派遣事業(PTA親子活動・自治会等へのニュースポーツの指導) 	<p>○令和元年に新たな自主事業を企画し、推進委員の活動を展開することができたが、R2はコロナ禍により中止したが、R3はサークル活動として実施できている。</p> <p>○スポーツの行事が中止となったが、広報たんばへの毎月掲載は実施できました。</p> <p>●各委員の出役回数に偏りがあるため、委員改選に伴い出役・取組みについて、各委員に委員の役割等、周知徹底した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年計画と同様に、体力測定やニュースポーツの普及に向けて、地域へ積極的に向向いていく。 ・ニュースポーツ(モルックにも挑戦)を始め委員の研修会を増やし、委員年数の低い委員にも知識や技術の取得を促進する。 ・今年度は夏季巡回ラジオ体操・みんなの体操会にも出役する。 	B	文化・スポーツ課
59 丹波市俳句協会	<p>新型コロナウイルス感染拡大防止のため事業を中止・縮小した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田ステ女俳句ラリー中止 ・たんば青春俳句祭中止 投句募集のみ 投句数 7,050句(7,612句) ・出張俳句教室回数 36回(3回) ・協会主催俳句募集 投句数 221句(一) 	<p>○コロナ対策により多くの人を集める事業は中止となった。</p> <p>○コロナ対策により学校からの要請がなく、俳句教室の回数が減った。</p> <p>○協会の活動を広報する会員向け会報誌の発行を行った。</p> <p>●コロナ対策のため、多くの人が集まる事業はできなかった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・会員の自主運営を促すため、より多くの会員が協会運営に携わる仕掛けをし、俳句協会の運営を継続できるように支援する。 	B	市民活動課

(3) 学びの力を高める

①自主運営事業への支援の充実

②指導者・リーダーの養成

③より高い学びに移行する仕組みづくり

④市民活動団体やNPOへの支援

事業名	令和3年度の取組	評価 (○自己評価、●自己評価に基づく課題)	令和4年度の取組	評価	部署名
22 文化ホール自主事業	<ul style="list-style-type: none"> ・若年層をターゲットにした鑑賞型事業や市内高校生による自主企画、バックステージツアー等の実施。 ・自主事業 8公演(8公演) ・自主事業来館者数 2,296人(2,294人) 	<p>○コロナ禍ではあったが、座席制限等をしてしながら事業が実施できた。</p> <p>●新聞やラジオ放送等を積極的に活用・タイアップする等、ファン・リピーターの増加に向けた営業・広報戦略が必要。</p> <p>●舞台芸術に触れる機会・環境を整備するために、アウトリーチや体験型ワークショップ等の事業展開による舞台芸術環境づくりが必要。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・観客増員に向けて、アンケート分析、ホール事業推進会議の意見を踏まえ、魅力ある事業や若い世代を対象とした事業の取り組みを引き続き展開する。 ・アウトリーチ活動は、文化芸術を鑑賞しようとする市民意識の向上と舞台芸術環境づくりに資すると期待できるため、積極的な取り組みをする。また学校教育との連携等、教育委員会と 	B	文化・スポーツ課

			協議し実現可能なものは取り組みに向けて検討する。 ・令和4年度以降は「はじめての一步シリーズ」として、多様な分野での芸術鑑賞・体験講座を計画する。		
23 オペレーター養成講座	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生・高校生を対象に、子どもたちが多彩な文化芸術に触れる機会として文化芸術体験講座「はじめての一步」を開催。3名受講。 ・オペレーター養成講座（短期型）を開催。4名受講。 	<p>○中学生、高校生を対象として体験講座を実施した。</p> <p>○オペレーター養成講座は短期型として実施した。</p> <p>●毎年養成講座を開催し、会員の増加と組織拡充に取り組んでいるが、現オペレーター会員の高齢化や会員総数が横ばい（減少）傾向であるため、講座内容の見直しやニーズ把握等の分析が必要。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・オペレータークラブ会員増に向けた養成講座は拡充実施し、組織の拡充を図る取り組みを行う。 ・オペレーターには、さまざまな知識や経験が必要だが、幅広い年代の人が可能な限り参加しやすい講座となるよう内容や広報の方法を検討する。 	B	文化・スポーツ課
30 スポーツ協会運営事業	<ul style="list-style-type: none"> ・市民スポーツ大会の開催 5月～翌年3月 ・熱中症研修会 6回計57名（中止） ・加入団体に補助金 ・少年少女スポーツ団体に活動費の補助 ・スポーツ教室の開催 卓球、ソフトテニス（卓球、ソフトテニス） 	<p>○丹波市体育協会から丹波市スポーツ協会へと移行し、研修事業が共有化でき参加者の広がりが出ているが、コロナ禍の影響で事業中止が相次いだ。</p> <p>●コロナ禍の状況で、市民スポーツ大会が開催できなかった協会があり、各団体の会員減少により事業実施ができないケースが見受けられる。</p>	<p>○スポーツ協会の事務局体制を充実することにより「スポーツ推進計画」の基本理念”スポーツを通じたまちづくり”の推進を図ると共に、課の事務事業の一部を移行し事業の充実を図るよう計画する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修事業の共有化・拡充化を図る。各団体の、共通の課題として認識できるようなテーマによる研修を継続できるよう企画する。 ・加盟団体の状況とニーズの把握につとめ、協会内で共有を図り、共通課題として取り組む推進体制を構築する。 	B	文化・スポーツ課
43 丹波市地域づくり交付金	<ul style="list-style-type: none"> ・地域づくり交付金 25件 91,563,000円 25件 (95,100,000円) (広報等仕分・配布支援の地域選択事業を含む) 	<p>○概ね小学校区における地域課題の解決を図り、かつ、市民による主体的な連携と交流の新たな地域づくりを進めた。</p> <p>●課題解決型交付金の使途がハード整備や継続したイベントに使用されている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・広報等仕分・配布支援を自治協議会が担う地域選択事業を拡大実施する。 ・課題解決型交付金の使途について見直しを図る。 	B	市民活動課

48 TAMBA 地域づくり大学	市民の興味関心に沿った3テーマを設定し開催した。 ・オープニングイベント 10人 ・科目別講座の延べ参加者数 72人 ・クロージング交流会 10人 ※昨年度と開催内容や講座数が違い比較できないため、実績は記載しない。	○各分野ともテーマ設定がしっかりしており、講座の中でステップアップする仕掛けがあった。 ○コロナ対策として会場とオンラインのハイブリッド開催とした。 ●コロナ禍での開催であるものの、参加者が少なく、ニーズ把握のための仕掛けが必要である。	令和4年度から市民プラザの運営を指定管理者による運営とし、指定管理者による地域づくり講座を別途実施するため、本事業は取り止める。	B	市民活動課
53 地域高齢者学級（丹波市生涯学習振興補助金）	・5つの高齢者学級が趣味講座、サークル活動を中心に活動された。 ・新型コロナウイルス感染拡大に気を付けながら、それぞれで対策し活動を行った。 ・地域高齢者学級5団体 1603,000円（1,920,000円）	○各高齢者学級が主体性をもって企画し、各講座を運営できている。 ●学習成果をまちづくりに活かすという知識循環型生涯学習についての認識を深める必要がある。 ●各クラブの指導者や運営委員、参加者の確保が課題となっている。	・引き続き地域高齢者学級連絡会を開催し、各学級の運営方法などの情報共有を図る。	B	市民活動課
58 丹波市社会教育関係団体補助金	丹波市子ども会育成協議会 ・補助金額：100,000円（100,000円）	○役員の選出に苦慮している。 ●単位子ども会役員の枠外からの役員の選出、指導者の養成が必要である。	・引き続き丹波市子ども会育成協議会に社会教育関係団体補助金を交付する。 ・目的に沿った協議会の運営を継続して実施する。	C	市民活動課
109 丹波市社会教育関係団体補助金	丹波市PTA連合会 ・補助金：58,351円(260,000円) ・活動内容：丹波市PTAリーダー修会の開催	○市内小中学生への1人1台のタブレット端末の導入に関連した内容の研修会を開催し、学校教育と連携した学びの機会を提供した。 ●コロナ禍による影響を大きく受け、PTCA活動実践交流会を開催することができなかった。	・社会教育関係団体としての活動を推進するため、今後も活動費補助を継続する。	B	社会教育・文化財課

3. まなび里をつくろう

(1) 学びで地域の魅力を見つける

① 自然や歴史、伝統文化を活用した学びの機会の提供

② 地域の魅力発掘と新しい学びの創出

[評価]

A 期待以上の成果が得られた

B 概ね期待どおりの成果が得られた

C 期待したほどの成果が得られなかった

D 成果が得られなかった

評価	学習環境が整備され学びにあふれていると感じる市民の割合は、H29:39.1%、H30:39.4%であり、以後も順調に伸びている。市民活動支援センターや男女共同参画センターの設置に加え、市民提案の事業補助金なども定着し始めている。	指標名	R1	R2	R3
		学びやすい環境が整備され、自分の周りが学びにあふれていると感じる市民の割合	45.0	41.5	42.8

事業名	令和3年度の実績	評価 (○自己評価、●自己評価に基づく課題)	令和4年度の実績	評価	部署名
42 3市連携互近助サミット	3市連携まちづくり互近助サミット ・期日 12/11 開催 ・会場 ポップアップホール ・参加 福知山市、朝来市、丹波市の地域づくり協議会役員等 57人 (37人) ・内容 西脇市比延の取組、交流会	○3市連携まちづくり互近助サミットでは、コロナ禍における地域課題について学び、今後の活動に繋がる研修となった。 ●各地域の好事例の取組紹介を行ってきたが、地域の持続に関する悩み事などを共有する会も必要である。	・各自治協議会の取組を改めて見つめ直し、地域の課題認識に基づく段階に応じた伴走支援が必要である。 ・丹波市の好事例を参考に福知山市の取組が進められた例がある。引き続き交流事業を継続する。	A	市民活動課
47 丹波市活躍市民によるまちづくり事業応援補助金	補助金交付件数 ・提案補助金 (上限 300 千円) 12 事業 (7 事業) ・応援補助金 (上限 50 千円) 1 事業 (1 事業)	○年度開始前に審査会を開催し交付団体を決定することで、各団体は 4 月 1 日から事業を進めることができた。 ○提案補助金は特色を生かした 12 団体から補助金交付申請があった。 ○コロナの影響により 12 団体のうち 7 団体が事業を中止した。	・新しい生活様式に合わせ、コロナ禍においても積極的な活動が提案されるよう申請時に指導する。 ・補助年数 (3 年) が終了しても活動が継続できるよう収支計画について助言する。	A	市民活動課
59 丹波市俳句協会	新型コロナウイルス感染拡大防止のため事業を中止・縮小した。 ・田ステ女俳句ラリー中止 ・たんば青春俳句祭中止 投句募集のみ 投句数 7,050 句 (7,612 句) ・出張俳句教室回数 36 回 (3 回) ・協会主催俳句募集 投句数 221 句 (一)	○コロナ対策により多くの人を集める事業は中止となった。 ○コロナ対策により学校からの要請がなく、俳句教室の回数減った。 ○協会の活動を広報する会員向け会報誌の発刊を行った。 ●コロナ対策のため、多くの人が集まる事業はできなかった。	・会員の自主運営を促すため、より多くの会員が協会運営に携わる仕掛けをし、俳句協会の運営を継続できるように支援する。	B	市民活動課

67 丹波布伝承館事業	<ul style="list-style-type: none"> 来館者数 14,923人(15,773人) 丹波布長期伝承教室の開催 第12期生4名受講(11期生7名) 短期伝承教室開催 5日間(5日間) 創作展・企画展開催 2回(2回) 糸紡ぎ体験・織体験等各種講座開催 参加者 61人(65人) 地域おこし協力隊による丹波布製品の開発、技術保存会の組織強化 	<p>○開館以来実施している長期教室は第12期生となり、技術の継承、文化の保存への継続的な取り組みができています。</p> <p>●新型コロナウイルス感染症による旅行自粛等により来館者数は減少したが、引き続き広報や企画展の創意工夫を行い、丹波布の普及を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 指定管理制度導入を含め、施設全体の運営方法の検討を行う。 青垣小学校のふるさと学習への出前講座等の実施 丹波布技術保存会の組織強化 	B	市民活動課
111 歴史講座	<p>一般市民を対象とした歴史講座を開催した。講座6回(6回)</p> <ul style="list-style-type: none"> 山南：7月17日 34人(27人) 春日：8月28日 36人(36人) 市島：9月25日 30人(34人) 青垣：10月30日 28人(29人) 柏原：12月11日 34人(30人) 氷上：2月26日 36人(23人) 合計：198人(179人) 	<p>○歴史講座を開催したことにより、身近な地域の歴史や文化を見直す機会とした取り組みができた。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症対策で参加者が限られるため講座の動画発信を行ない、当日参加できない方も聴講が可能となった。</p> <p>●若い世代が歴史文化に親しむ機会の創出が必要。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地域ごとに6回の講座を実施する。 若い世代にも身近な歴史・文化に親しんでもらうため、若い世代の講師を選任し、講座の開催を市広報及びホームページに掲載するとともに防災行政無線でも周知する。 	B	社会教育・文化財課
114 いきものふれあいの里運営事業	<ul style="list-style-type: none"> 自然体験学習会 10回(9回) 企画展 6回(6回) 出前事業 17回(8回) 施設見学等 9回(10回) その他イベント出展等 3回(1回) 利用人数 計 6,356人(4,043人) 	<p>○保管標本の整理や地域内動植物の保全活動、熊の出没に伴う地域住民への学習会の開催等、本施設が果たすべき役割を見据えた取り組みを行った。</p> <p>●より多くの市民に事業を周知、参加いただく検討を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 企画展や講座の継続的な取り組みと共に、「生物多様性」に重きを置き、地域の、生徒、子供たちを中心とした環境体験学習を開催し、関心を高める 	B	社会教育・文化財課
120 化石発掘体験	<p>化石発掘現場来訪者数 41,717人/年(41,666人/年)</p>	<p>○丹波竜化石工房ちーたんの館が休館になっている間にも元気村かみくげを訪れる来客者があったため、来訪者数の増加につながった。</p> <p>●ちーたんの館の恐竜化石等展示と元気村で行っている発掘体験の双方を効果的に情報発信する必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 化石発掘現場来訪者数 25,000人/年 	B	恐竜課

(2) 学びのまちをつくる

①地域の学習施設の利用

②専門的な教育機関との連携

③市民活動団体や NPO への協働

④学校・家庭・地域の連携・協働

事業名	令和3年度の取組	評価 (○自己評価、●自己評価に基づく課題)	令和4年度の取組	評価	部署名
4 地域人権教育事業	<ul style="list-style-type: none"> ・実施主体 各中学校の校区委員会 ・委託料 上限 各校区 20 万円 ・事業内容 ①中学生の現状から学校、家庭及び地域の人権課題について学ぶ学習会②広く住民を募って実施する地域づくり事業（講演会、展示会など） ③現地学習会 ・委託費 7中学校区合計 550,483 円（上限 1,400,000 円） 	<p>○事前の事業費に関する説明により適正な事業執行ができた。</p> <p>●適正な事業執行による契約額の精査が必要。</p> <p>●「学びの場を止めない」という考えのもと、新しい生活様式を取り入れた実施方法で取り組む必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の予防対策を講じながら、市内7地区での事業実施を図る。 	B	人権啓発センター
46 丹波市地域づくり活動拠点施設整備事業補助金	<ul style="list-style-type: none"> ・地域づくり活動拠点施設の改修 ・改修 4件（1件） 	<p>○自治協議会において、活動拠点施設の改修が実施され、施設の機能向上による地域づくり活動の活性化が促進された。</p> <p>●建築年数が古い施設が多く、取り壊しや改築に大きな負担が生じる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き自治協議会等の地域づくり活動の推進を図る。 ・拠点施設の役割や近隣公共施設との関係を整理し、耐震工事や建て替えを計画される際の相談を行う。 	A	市民活動課
47 丹波市活躍市民によるまちづくり事業応援補助金	<ul style="list-style-type: none"> ・補助金交付件数 ・提案補助金（上限 300 千円） 12 事業（7 事業） ・応援補助金（上限 50 千円） 1 事業（1 事業） 	<p>○年度開始前に審査会を開催し交付団体を決定することで、各団体は4月1日から事業を進めることができた。</p> <p>○提案補助金は特色を生かした12団体から補助金交付申請があった。</p> <p>○コロナの影響により12団体のうち7団体が事業を中止した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい生活様式に合わせ、コロナ禍においても積極的な活動が提案されるよう申請時に指導する。 ・補助年数（3年）が終了しても活動が継続できるよう収支計画について助言する。 	A	市民活動課
64 自治公民館活動補助金	<ul style="list-style-type: none"> ・205自治公民館が実施。（202自治公民館） 【主なテーマ】 ①人権意識を高める学習活動事業 ②地域コミュニティの形成のための事業 ・住民が集まらなくてもできる自治公民館活動を考え工夫されている自治公民館がみられた。 	<p>○コロナウイルスの影響により、自治公民館活動が縮小・中止されたところもあった。</p> <p>○補助金説明会は行わず、資料送付とした。</p> <p>○コロナウイルスの影響により、一方の事業を実施した場合も補助対象とした。</p> <p>○自治公民館長・公民館主事を対象とした研修会を2回に分けて実施した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館長や公民館主事を対象にした「公民館活動の進め方」に関する研修会を開催する。 	B	市民活動課

110 学校と地域でつくる学びの未来を考える勉強会	<ul style="list-style-type: none"> ・実施日：令和3年4月24日 ・場所：柏原住民センター ・参加者：46名（オンライン参加含む） ・講師：大谷 裕美子 氏 ・テーマ：大人も子どもも楽しく学べるまちづくり 	<p>○講話をもとに自らの地域を振り返り、課題を共有できた。</p> <p>●学校、地域、関係団体、個人とのネットワーク化をめざす。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域から考える学びの未来会議」の開催 ・年間2～3回開催 	B	社会教育・文化財課
112 '考古学講座	<ul style="list-style-type: none"> ・実施日：12月4日 ・会場 春日住民センター ・演題「丹波国の城、播磨国の城」 ・講師 宍粟市教育委員会 堀寛之氏 ・参加者 24名 	<p>○考古学から見た黒井城に関する講座を開催し、城について周知することができた。</p> <p>●コロナ禍ではあるが、広報周知を行いさらに多くの参加者を募る。</p>	令和3年度新規事業 今年度も考古学に関する講座を開催予定	B	社会教育・文化財課
113 歴史民俗資料館の運営	<p>ユネスコ無形文化遺産登録記念企画展「スゴ技・檜皮葺のすべて」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とき：8月22日 ・会場：山南ふるさと文化財の森センター ・参加者 20名 ・会期：10月9日～11月28日 ・会場：柏原藩陣屋跡展示室 ・入館者 1,953名 <p>円通寺「ふすま下張り文書」展</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会場：柏原藩陣屋跡展示室 ・会期：9月14日～9月26日 ・入館者：502名 ・資料館年間入館者数 5,569人（3,385人） 	<p>○新型コロナウイルス感染拡大防止のため、資料館の臨時休館があったが、企画展等の実施により歴史・文化財を紹介する役割が果たせた。</p> <p>●身近な歴史資料に触れる機会を設けるため、翌年度以降も資料館において、企画展の開催を検討する。</p>	<p>柏原歴史民俗資料館において兵庫県立歴史博物館との共催で歴史文化キャラバンを開催し、陣屋においても中井権次の企画展を開催する。</p> <p>また、植野記念美術館において梶原遺跡出土犁を中心とする企画展を開催する。</p>	B	社会教育・文化財課

(3) 学びからまちを活性化する

①地域課題解決のための市民力の醸成

②地域課題解決のための仕組みづくり

③地域で子ども・若者を育てる環境づくり

事業名	令和3年度の取組	評価（○自己評価、●自己評価に基づく課題）	令和4年度の取組	評価	部署名
14 男女共同参画推進事業補助金	<ul style="list-style-type: none"> ・補助件数：11団体（5団体） ・補助総額：204,027円（269,320円） 	<p>○補助金を活用し、新たに取組を行った団体等があり、地域等での自主的な学習・啓発活動を促すことができた。</p> <p>●地域で進める男女共同参画を支援するため、補助金の活用について、より積極的な周知が必要である。</p>	<p>広報紙や市ホームページ、男女共同参画推進員研修会を通じて、補助金を周知する。</p>	B	人権啓発センター

42 3市連携 互近助サミット	3市連携まちづくり互近助サミット ・期日 12/11 開催 ・会場 ポップアップホール ・参加 福知山市、朝来市、丹波市の地域づくり協議会役員等 57 人 (37 人) ・内容 西脇市比延の取組、交流会	○3市連携まちづくり互近助サミットでは、コロナ禍における地域課題について学び、今後の活動に繋がる研修となった。 ●各地域の好事例の取組紹介を行ってきたが、地域の持続に関する悩み事などを共有する会も必要である。	・各自治協議会の取組を改めて見つめ直し、地域の課題認識に基づく段階に応じた伴走支援が必要である。 ・丹波市の好事例を参考に福知山市の取組が進められた例がある。引き続き交流事業を継続する。	A	市民活動課
43 丹波市地域づくり交付金	・地域づくり交付金 25 件 91,563,000 円 25 件 (95,100,000 円) (広報等仕分・配布支援の地域選択事業を含む)	○概ね小学校区における地域課題の解決を図り、かつ、市民による主体的な連携と交流の新たな地域づくりを進めた。 ●課題解決型交付金の使途がハード整備や継続したイベントに使用されている。	・広報等仕分・配布支援を自治協議会が担う地域選択事業を拡大実施する。 ・課題解決型交付金の使途について見直しを図る。	B	市民活動課
48 TAMBA 地域づくり大学	市民の興味関心に沿った3テーマを設定し開催した。 ・オープニングイベント 10 人 ・科目別講座の延べ参加者数 72 人 ・クロージング交流会 10 人 ※昨年度と開催内容や講座数が違い比較できないため、実績は記載しない。	○各分野ともテーマ設定がしっかりしており、講座の中でステップアップする仕掛けがあった。 ○コロナ対策として会場とオンラインのハイブリッド開催とした。 ●コロナ禍での開催であるものの、参加者が少なく、ニーズ把握のための仕掛けが必要である。	令和 4 年度から市民プラザの運営を指定管理者による運営とし、指定管理者による地域づくり講座を別途実施するため、本事業は取り止める。	B	市民活動課
57 丹波市子ども会育成協議会	・少年少女オセロ大会 中止 ・子どもプログラミング体験 参加者：市内小学生 24 名 大人 24 名 ・子ども会安全共済会 加入団体：131 団体、3,111 名 ・子どもの手による子ども会支援事業 支援団体：3 団体 74,520 円	○芦田集学校に依頼し、小学生を対象とした「子どもプログラミング体験」を実施し、24 名の参加者があった。 ●丹波市子ども会育成協議会を存続していくために、子どもとの関わりをもってもらえる役員の確保が課題となっている。	・青少年育成に関する事業を実施し、高校生や保護者を含めた大人の関りができるような取組を行う。	C	市民活動課
110 学校と地域でつくる学びの未来を考える勉強会	実施日：令和3年4月24日 場所：柏原住民センター 参加者：46名（オンライン参加含む） 講師：大谷 裕美子 氏 テーマ：大人も子どもも楽しく学べるまちづくり	○講話をもとに自らの地域を振り返り、課題を共有できた。 ●学校、地域、関係団体、個人とのネットワーク化をめざす。	・「地域から考える学びの未来会議」の開催 ・年間2～3回開催	B	社会教育・文化財課